

実習施設と保育士養成校の協働による保育実習 (保育所)の実践

—実習園の意識調査を手がかりにして—

澤津まり子, 鎌田雅史 (幼児教育学科)

An Attempt at Collaborative Practical Training for Trainee Nursery School Teachers between Training School for Nursery Teachers and Nursery Institution

SAWAZU Mariko, KAMADA Masafumi (Department of Preschool Education)

抄 録

実習園と養成校の協働の保育所実習のあり方を模索するため、岡山県内の実習園で意識調査を実施し、以下の知見を得た。岡山県内の保育所は実習生を温かく見守り前向きに実習指導を捉えていることが示された。また、実習園では実習指導についてキャリアアップの機会として建設的に捉えられている側面が示された。さらに、実習生の実習マナーや社会的基礎力の充足を養成校に求めていることが示され、事前指導の重要性が再確認された。実習園と養成校の協働の方向性としては、双方の役割分担を明確にし、その実現に努めるとともに、進捗状況を情報交換して共通認識とすることが求められている。一方で、双方が個別に検討・実施するより一緒にした方がよい場合には、検討会を立ち上げて模索することが望まれる。共通認識のもとで協働関係がうまくかみ合うことによって相互理解が深まれば、本体の実習もより充実するものと推測される。

キーワード：保育所実習、意識調査、実習園、協働、実習指導

I はじめに

平成21年(2009)の保育所保育指針第3次改定に伴い、保育士養成課程が改定され、保育現場の実情を踏まえた実践力や応用力をもった保育士養成のために、実習や実習指導の充実を図ることが求められている。実習を核とした保育士養成を実現していくためには、実習園と保育士養成校(以下養成校という)の協働による保育所実習の実践が不可欠である。そのためには、実習を受け入れる保育現場(以下実習園という)と養成校の意志の疎通が原点となる。実習園ではどのような意識をもって実習を受け入れているのか、実態を探るための調査を昨年実施(澤津, 2013)した。その結果、実習園では養成校教員との相互理解を深めるとともに、学生が実習をどのように捉えているか知りたいと思っているこ